

身体拘束ゼロについての宣言

オホーツク勤医協北見病院は、患者さん一人ひとりの尊厳を何よりも大切にし、その人らしい療養生活を支えるため、「身体拘束ゼロ」を目指すことをここに宣言します。

私たちは人権を尊重する民医連綱領を旗印に掲げてきました。身体拘束は、安全のためでもあります、人間としての尊厳も損ないます。私たちはこの困難な課題に対し、個人の努力ではなく組織として対応する決意をしました。

私は院長として、以下のことを宣言します。

1. 「ユマニチュード」を組織の文化にします

私たちは「ユマニチュード」の哲学と技術を組織の文化にします。「見つめる・話しかける・触れる・立つ」という関りで、不安や孤独、混乱から生じる「拘束せざるを得ない状況」を、チームの力で解消していくことを目指していきます。

2. 「生活を整える」ことで尊厳を守ります

「起きる、食べる、排泄する、清潔にする、活動する」という5つの基本的ケアをすべての基盤に置きます。

3. 事故への不安を「チームの力」で

現場の皆さんが抱く「もし事故が起きたら…」という不安を、個人の責任として背負わせることはしません。身体拘束を行わないという判断は、多職種が参画する委員会やカンファレンスを通じた「組織の決定」です。適切なケアの結果として生じた事象については、病院組織が全面的に責任を負います。

これは一過性のスローガンではなく、不断の努力と実践により皆さんと共に作っていきます。

2026年5月21日

オホーツク勤医協北見病院

院長 菊地 憲孝